

川俣町立福田小学校

教科名等：道徳

単元(題材)名：言葉のおくりもの(男女の協力)

学年：第6学年

実施状況

11月1日(月)の学校公開の日に合わせて実施しました。

本学級の児童は日頃から、男女仲良く学校生活を送ることができます。今後の思春期における、自分あるいは自分たちに起こりうる人間関係や思考傾向について、実際の生活場面を想起しながらその心情について考えることが大切であると考えました。

そこで本時では、「アンケートの結果」から、自分たちが異性をどのように考えているかを客観的に捉え、登場人物の姿を通して、異性であっても望ましい友情関係が大切であることを理解させることにしました。

自分たちもよい交友関係を築いていこうとする児童の反応が多くありました。

児童の感想

- ・ 何事も男子と女子で協力すること、助け合うことが「友情」だと思います。“一人はみんなのために、みんなは一人のために”これが大事だと思います。
- ・ みんなで休み時間遊んだこと、みんなで学習発表会を作り上げたことがうれしかった。これからも仲良くしていきたいです。
- ・ 性別関係なく、友だちが悩んでいる時、相談できるようにしたいです。
また、昼休みに男女混合のドッジボールをしているので、また遊びたいです。



参観者の感想

- ・ 異性に対して意識し始める頃、このような資料をもとに深く考えさせることは、たいへん意義のあることだと思いました。
- ・ 授業前から、学級の雰囲気の良さが感じられるよい学級集団であると感じました。このように素直な子ども達にあって、「男女の協力、友情」という価値を正面から考え深めさせることができたと思います。また、全員が輪になって話し合う場面では、子ども達同士が積極的に率直な考えを述べ、それらをみんなが認め合っていたと感じました。

指導者の感想

日頃から、男女仲のよいクラスであり、行事や係の仕事など生活の場面で男女で協力し合うことができている。しかし、同年代の男子が、教材にあるような考え方をしたり、言動をとってしまうことがあることを考えることによって、さらに今までの関係を良くしていこうとする意志が強まったように思います。

保護者に対しては、男女の協力について「心のノート」に意見を記入していただいたが、子ども達が、現在男女が協力し合っている姿があることや、これからもこの姿を続けていってほしいという感想、意見をいただきました。

子ども達の姿を通して、地域、あるいは社会全体が、男女で協力して社会を作り上げていくという姿になっていくのではないかと考えました。

伊達市立月館中学校

教科名等：学級活動

単元(題材)名：男子、女子…同じ？ちがう？

～男女のちがいをどう考えるか～

学年：第1学年

実施状況

<ねらい>

現在や将来の生き方について、性別に制約されない考え方を持ち、男女が互いに理解し合い、尊重し合う必要性があることに気づく。

<授業内容>

まず、男性（女性）の中で働く女性（男性）の例を示し、職業と性別役割について考えさせた。次に、男性と女性にはそれぞれ特性があることを理解させた上で、その性差は絶対的なものではないことに気づかせた。その上で、職業に就く際に大切なものは性別役割ではなくて適性であることを理解させ、男女が協力し合う社会の実現について考えさせた。

生徒の感想

- ・ 男性の多い職業の中で、がんばっている女性がいるのはすごい。
- ・ お互いを大切に考え、適性を認め合うことが必要だと思った。
- ・ 男女差別のない社会にしたい。
- ・ イメージにこだわらないことが大切だ。
- ・ 男子に多い・女子に多い職業がある。
- ・ 性別に関係のない職業もあれば、男性と女性で仕事の内容を区別する職業もある。
- ・ 「自分にあった職場」なら性別は関係ないと思った。

参観者の感想

- ・ 男女の役割や仕事について、見直す良いきっかけができたと思います。伸びやかに自分がやりたい仕事をみつけてほしいです。
- ・ 職業観に関する指導は、1年生の頃から計画的に行なうことが大切であると感じました。
- ・ 世の中の流れが学校に生かされ、学べることが大変すばらしいと感じました。
- ・ 日本の枠にとらわれず、世界を意識し、日本人として立派な人格育成には必要な時間であると考えさせられました。

指導者の感想

- ・ 男女20名ずつのバランスのよい学年であり、小学生の時から男女をあまり意識せず、協力し合える生徒が多くいた。今回の授業でも、男女の違いを理解した上で、お互いが協力し合うことの大切さを改めて自覚するきっかけになったと思う。
- ・ 今後も、お互いを大切にする気持ちを持続け、男女共同参画社会が実現できるように、生徒たちとともに考えることが指導者としても必要であると考える。
- ・ 現在、職業選択は、固定的な性別役割に制約されることはあることは事実だが、今後生徒が、「男女が互いに理解し合い、尊重し合い、協力し合う」考え方を持つための基礎は、できてきたように思われる。これからも、機会を見つけて生徒たちに考えさせたい。

伊達市立月館中学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：職場体験活動からジェンダーについて考える
学年：第2学年

実施状況

<ねらい>

職場体験活動を行った職業について、男女の区別があるのかを考えることを通して、ジェンダーについて正しい認識を持つことができる。

<授業内容>

職場体験活動で体験した15種類の仕事について、男女の区別があるのか、それともどちらでもできる仕事なのか、理由も含めて考えさせ、全体の場で話し合わせた。特に、男女の区別があると考える理由やどちらでもできると考えた理由について話し合うことを通して、固定的な役割分担にとらわれることなく、自分らしさを發揮することの大切さについて気づかせ、ジェンダーについての正しい認識を持たせた。

生徒の感想

- ・ 自分の好きなことを仕事にするのが職業だと思う。そこに男女の差別は関係ないと思う。また、男女差別でその人のせっかく伸びる芽を摘んでしまってはもったいない。その人の個性を尊重することが大切だと思う。
- ・ 自分のやりたい仕事や好きなものになれる社会なので、自分の夢を目指したいと思いました。また、男女別々ではない社会だと改めて感じました。
- ・ 憲法では「職業選択の自由」が保障されているし、「これは男の仕事」「これは女がやるものだ」と言うのはおかしい。これから社会にはこんな空気が広まってほしくないと思った。

参観者の感想

- ・ 男女の役割や仕事について、見直す良いきっかけができたと思います。伸びやかに自分がやりたい仕事をみつけてほしいです。
- ・ 職業観に関する指導は1年生の頃から計画的に行なうことが大切であると感じました。
- ・ 世の中の流れが学校に生かされ、学べることが大変すばらしいと感じました。
- ・ 日本の枠にとらわれず、世界を意識し、日本人として立派な人格育成には必要な時間であると考えさせられました。

指導者の感想

男女の区別があると答えた職業は予想の範囲であった。しかし、指導者が考えるよりも、生徒の方が職業に対して柔軟な考え方をしていると思った。生徒が男女の区別があるとした職業は、実生活の中での経験が影響しており、ジェンダーにとらわれない考え方を社会全体に広げていくことで、生徒たちのものの見方や考え方は変化していくように思う。むしろ、指導者側（大人）がこれまでの古い固定観念にとらわれていることもあるため、男女共同参画社会の実現に向けたものの見方や考え方へ変えていく必要があると思う。そして、従来の「男だから」「女だから」という考でなく、個の特性を活かしつつ、互いに協力し合い、互いを尊重し合えるような考方ができる生徒を育成していくことが大切ではないかと思った。

伊達市立月館中学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：ジェンダーにとらわれない職業選択について考える
年：第3学年

実施状況

<ねらい>

ジェンダーにとらわれずに、自分らしさを大切にしながら職業選択していくことの大切さに気づく。

<授業内容>

まず、将来の自分の夢や就きたい職業について発表させ、進路について考える機会であることを確認した。職業を男女別に分けるワークシートを用いて話し合いを行い、仕事に対して持っているイメージがジェンダーにとらわれていることに気づかせた。最後に、性別役割にとらわれず、自分らしく仕事をしている人の資料やインタビュー映像を見せ、職業を選択するときにどのようなことを大切にしていきたいかをワークシートに記入し、発表させた。

生徒の感想

- 男女の区別なく、自分の好きな仕事を目指せばよいと思った。
- でも、性別を気にせず仕事を選ぶのは、勇気がいると思った。
- 自分をよく知り、自分にあった職業に就くことが大切だと思った。これは女性の仕事、男性の仕事と決めつけないで、自分のやりたい仕事があつたら何でも挑戦していきたい。
- 私も夢を持ち、夢に向かって一步を踏み出し、やりがいが持てる仕事に就きたいと思った。
- 自分が本当に就きたい職業をよく考え、それに向かってあきらめない気持ちを持つことが大切だと思った。そういう気持ちを持っていれば、必ず就きたい職業に就けると感じた。

参観者の感想

- 男女の役割や仕事について、見直す良いきっかけができたと思います。伸びやかに自分がやりたい仕事をみつけてほしいです。
- 職業観に関する指導は、1年生の頃から計画的に行なうことが大切であると感じました。
- 世の中の流れが学校に生かされ、学べることが大変すばらしいと感じました。
- 日本の枠にとらわれず、世界を意識し、日本人として立派な人格育成には必要な時間であると考えさせられました。

指導者の感想

- 社会科（公民的分野）でも男女共同参画社会等について学習し、多くの生徒が性別にとらわれずに個性を尊重していくことの大切さを認識している。しかし、自分たちの中にも「男の仕事」「女の仕事」というイメージが無意識のうちに存在していることに改めて気づいた生徒が多くかった。
- 性別役割にとらわれずに自分らしさを大切にして職業選択した人生の先輩の資料やインタビュー映像は、進路選択の時期も迫り、漠然とした不安を抱えながら生活している生徒たちにとって、大きな励ましのメッセージとなった。男女共同参画社会について考えるための授業ではあったが、進路選択に関するプラスの効果があったと感じる。
- 自分をよく知って自分らしい進路選択ができるよう、今後も学級活動等で考えさせてていきたい。

県立安達高等学校

教科名等：家庭「発達と保育」
単元(題材)名：課題学習「乳幼児の子育てプラン」
～育ち合う日々をめざして～
学年：第3学年

実施状況

くねらい>

これまで学習してきた内容、保育所訪問の体験、講演会で聞いた保育者の心構えなどをふまえ、乳幼児を持つ夫婦が協力して家庭生活を営む具体的な方法についてプランを作成する。パワーポイントを用いてプレゼンテーションをすることによって、課題を明確にしてその解決法を探る。また、情報を共有し、多様な課題とその解決策や対応について多面的に捉える態度や実践的な態度を養う。



<指導計画(概要)>

- ① インタビュー 先生方へのインタビューから子育ての具体的な課題や生活の工夫についてまとめる。
- ② 二本松市の子育てに関する統計と子育て支援について学ぶ。
- ③ 各班で、プレゼンテーションの内容検討及びパワーポイントによるプレゼンテーション資料の制作
- ④ 発表とディスカッション、本単元のまとめ

生徒の感想

取り組み態度について（自己評価） 大変良かった 8人 （出席者 17人）
良かった 9人

- ・ 自分たちで調べることによって、より理解が深まりよかったです。
- ・ 各班の異なるテーマの発表を聞いたり、ディスカッションしたりしたことでのいろいろな考え方があることを知った。また、自分の考えを述べることができてうれしかった。
- ・ コミュニケーション能力を高めて、よく話し合って、わかり合うことが大切だと知った。
- ・ 子育てしている人が、もっと働きやすく子育てしやすい環境にしなければならない。

参観者の感想

- ・ 乳幼児をもつ夫婦が協力して家庭生活を営む具体的な方法を、あらゆる情報をもとにして、自分なりに考えている姿がすばらしいです。
- ・ 子育てという領域の中で、それぞれの班でテーマを設定しグループで意見を交流させながらお互いに補充したり深化させたりすることができる学習活動は、生徒達の考え方方に広がりと深まりが可能となるので、とてもよい授業構成であると感じました。
- ・ 「男女の協力」「分担」「分かり合う」等のキーワードからの対応策、とてもすばらしいです。しかし、現状は、看護休暇・男性の育休・子育て支援制度等整備されつつあるがまだまだである。だからこそ「分かり合う」「関わり合う」ことを大切にした人間関係力が求められる。

指導者の感想

短時間でプレゼンテーションの準備ができるように、例題のスライドショーを作成し最初の授業で見せた。これで生徒は課題学習の進め方をすぐに理解し、自分が何をすればよいか方向性をみつけることができた。乳幼児とふれあう機会が少ない生徒にとって、子育て体験者の生の声を聞くことで、子育ての具体的な課題を見つけ、その解決策についても自分たちで考えようとする意欲を引き出すことができた。公開授業では、プレゼンテーションの後のディスカッションで、各自が自分の意見を自分の言葉で述べることができた。また、児童虐待や育児放棄などの今日的な社会問題についても自分の考えを自分の言葉で述べることができた。ねらいがほぼ達成でき、生徒に自信を持たせることができてよかったです。

石川町立中谷第一小学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：男女の協力
学年：第4・5学年（複式学級）

実施状況

11月22日（月）の午後に公開授業を実施しました。地区内の教職員や保護者などの参観をおきました。

「もし、生まれ変われるなら男の人と女の人のどっちがいい？」という問い合わせから、男女のイメージの中に潜む差別意識をあぶり出し、「性差別の必要はないこと」、しかし「男女の区別はあり、お互いに協力していくことが大切であること」など、これまでにない視点から男女の協力に迫った授業を公開しました。また、女性にとって大変な出産における男性の協力の重要性についても考えさせ、「男女の区別がなくても協力できること」、「男女の区別があって協力が必要なこと」を学びました。



児童の感想

- 男の人と女の人人がお互いに協力し合うことが大事なんだなと思いました。
- 授業を受けて、男女の差がないことや赤ちゃんが生まれる時には男の人と女の人人が助け合いながらしなければならないことが分かりました。
- 男の人は出産はできないけれど、できることを手伝ってあげると女の人人が助かるから、女の人と男の人人が協力すればいいんだなと思いました。
- 私は、男女の差がすごくあるというイメージがあったので、男女の差はないということにおどろきました。それに、女的人は大変だと思っていたけど、協力すればいいんだなと思いました。

参観者の感想

- これからますます女性が社会に進出する中で、今日のような授業は大切だなと思いました。
- 児童は思ったことを発言し、とてもおもしろく楽しい授業でした。男性に手伝ってもらうことで少子化などの歯止めがかかればいいと思いました。
- 「不公平」「出産の大変さ」を考える場面では、子どもの実感を大切にしたいと思いました。
- 子どもたちが明るく元気いっぱい、活発な意見が飛び交っていました。学級の雰囲気もよかったです。やはり男性が楽なイメージありますが、男性がもっと関わりを持つことに気付いてほしいと思いました。
- 教師と子ども、子ども同士が信頼し、認め合っている雰囲気がとてもよく、それだけで男女共同参画社会の趣旨が果たせていると思いました。

指導者の感想

今回の授業をきっかけに、我々教師自身もこの「男女共同参画社会」について真剣に向き合うことができました。また、本時では地域の方々に授業を参観していただくことができました。

小学生の段階から少しずつ「男女共同参画」の意識を持たせ積み重ねていくことによって、子どもたちが社会人になったとき、男女共同参画社会へのいろいろな取り組みが成果としてあらわれるのだと思います。そのためにも、身近な問題として常に意識し、継続的に取り組んでいきたいと考えます。

鏡石町立鏡石中学校

教科名等：技術・家庭（家庭分野）
単元(題材)名：わたしたちの成長と家族・地域
学年：第2学年

実施状況

鏡石町小・中学校授業研究会の研究授業として行われた。事前授業として、中学校に幼稚とその保護者を招き、幼稚とのふれあいを行った際、保護者にも子育てについての質問し、自分はどんな風に子育てに関わっていきたいか考えさせた。

授業では、男性で育児休暇を取った例をあげ、また、男性教員の自分の子育てについての話を事前に録画したものをお授業内で視聴し、性別に関係なく、子育てに関わっていけることを確認した。



生徒の感想

- ・ 子育ては、女性が関わることが多いと思っていたけれど、男性も育児休業が取れるということを初めて知った。自分も育児休業をとってみたい。
- ・ 夫婦で子育てすることは、大事だと思った。私は、将来仕事をしたいと思っているので、夫と話し合って、二人で子育てをしていきたい。
- ・ 私は、結婚したら専業主婦になりたい。だから自分が主に子育てをしていきたい。でも、夫にも協力して欲しい。

参観者の感想

- ・ 生徒の感想の中で、「自分は…」という表現が多くあった。普段から一人一人の意見を大切にしているからだと思う。
- ・ 男女共同参画社会について、子どもたちにも無理なく考え方をさせることができていたのではないかと思う。
- ・ 知っている学校の先生方のインタビューや子育て芸人など、生徒は興味を持ってVTRを見ることができていた。

指導者の感想

自分が育ってきた環境を振り返り、また将来の自分の子育てを考える、良い機会となった。子育てをするということに、性差は関係なく、自分が望めば関わるということが理解できたようだ。生徒同士話し合いの時間を設け、自分だったらどうしたいのか、発表させる時間があれば、もっと深まったのではないかと思った。



県立郡山商業高等学校

教科名等：家庭「家庭総合」

単元(題材)名：男女で担う子育て

学年：第3学年

実施状況

子育て中の夫婦〈Aさん(育児休業中)・Bさん〉の生活時間の例を示し、子どもの世話を使う時間の多さ、不規則さを確認させ、夫婦のコメントから、夫婦の生活時間の差を読みとらせた。そこで、夫婦がお互いの悩みを解消し、ゆとりのある生活を送るためにには、どのような生活時間の改善が必要か、そのためにはどんな解決策があるかをグループ(6~7人の班 6班)で考えさせた。その際、キーワードとして介護・育児休業法について説明を行い、参考にさせた。各班の意見を発表させ、男女が支えあって子育てをすることの必要性、男女で担う子育てのあり方について考えを深めさせた。

また、Aさん・Bさんのどちらが妻なのかを示していないにもかかわらず、クラス全員がAさんを妻と考えていたため、性別役割分担の固定観念についてふれることにより、私たち一人ひとりが意識を変えていく必要があることにも気付かせるようにした。

生徒の感想

- 育児と家事の両立を一人ですることは大変であることを改めて感じた。また、Aを“女”Bを“男”と勝手に決めつけていた自分も性別役割分担意識があることに気づいた。性別役割分担の考えをまず捨てることからはじめなければならないと思う。
- それぞれの班の意見を聞き、改善策もたくさんあると思った。将来自分も育児をするときがあると思うので、夫と協力して性別役割分担の意識を捨てて、育児をしていきたいと思った。
- 子育てというものは夫婦で楽しむべきだと思う。確かに仕事は必要であるが、父と子どものコミュニケーションもとても大切であると思う。小さい頃のふれ合いが、大人になるまでの成長過程に影響すると思う。
- 夫婦で協力することが最も大切なないと感じました。育児に関する制度がもっと世間に広まり、制度を利用しやすくなれば良いと思います。また、性別役割分担も問題で、確かに、私自身も、「女性は育児」などと思っていたことに気づかされました。そういったところから、意識が変わっていくかなくてはいけないなあと改めて実感することができました。

参観者の感想

- 生徒たちは、自分達の将来のことを考え、また、生徒によっては自分の家庭のこと(両親)を考えていました。理想と現実のギャップ、理想が実現できない現実の社会について生徒に考えさせ、発展させていけば深まることだと思います。
- 家族の設定で男女の特定をしていないにもかかわらず、生徒の中では性別役割分担がしっかりなされていることを痛感しました。次代を担う高校生にとって、気づきと考えさせることのできる有意義な授業と考えます。
- 生徒が積極的に思考活動をしている点が良かったです。役割意識の撤廃は、雇用の不安定な時代では特に必要になってくると思いました。このような授業を受けたお父さん予備軍の子育てに期待します。

指導者の感想

「子育て＝母親」という固定観念が、生徒たちの意識の中にも強く存在することを痛感させられた。授業を通して、生徒一人一人が、自分自身の身近な課題として主体的にとらえ、様々な意見を聞くことにより、自分の家族及び将来の家族のあり方について考えるきっかけとなったのではないかと思われる。今後は、理想と現実の格差や社会のあり方にもふれていきたい。

西郷村立小田倉小学校

教科名等：道徳
単元(題材)名：ゆかいなせんたくもの
学年：第1学年

実施状況

児童が実際にしている家庭でのお手伝いや学校での係活動を想起させ、活動中どんなことを考えながら取り組んでいるのか、素直な気持ちを引き出させて本題に入った。家族のために洗濯物を干している主人公の「わたし」と弟の姿、主人公が家族の洗濯物に愛情を持って接している様子など、家族のためにという視点で自分自身の姿や主人公の気持ちに共感できるようにした。授業終盤は、家庭に働きかけた「家族からのお手紙」（家庭でお手伝いをしている子どもへのメッセージ）を取り上げ、自分でできる仕事は進んですることや、家庭や学校のために役立つすばらしさについて感じさせることができた。



児童の感想

- 女の子の気持ちがよくわかりました。私も時々ママの洗濯を手伝っているときにはありがとうございます。
- 授業をして、みんないろいろなお手伝いをしているんだな、と思いました。
- お手伝いをやるのが大切だと思いました。
- もう少しお手伝いをふやしたいと思いました。
- ぼくは、洗濯物干しをしたことがなかったけれど、こんどからやりたいと思いました。

参観者の感想

- みんな家でいろいろなお手伝いをしていると知り「1年生なのにすごいな」と思いました。お手伝いをすると、家族みんなが喜ぶことを知りました。今は前よりも手伝ってくれるようになりました。どんな小さなことでも、やってくれたら、「ありがとう」とたくさん伝えたいです。
- 授業を通して、家族の中で助け合う気持ちや人を思いやる気持ちを学んでくれたように感じました。
- お手伝いを通しながら、成長していくための学習でとても大切なことだと思います。
- お手伝いを継続していくことってなかなかむずかしいことだと思います。家族のためみんなのためという意識を持って親子共々何事にも取り組んでいけたらいいな、と思いました。

指導者の感想

- 自ら活動している係活動やお手伝いを想起し、活動は単に楽しいからではなく家族やクラスのために行っていることを、主人公の「わたし」と共感できるような「役割演技」などを取り入れた活動を通して学ばせたことは、低学年にとってはとてもよかったです。
- 授業後の子どもたちの感想や保護者の方の感想を聞き、日常生活においても学習内容の深まりが見られたのだと思いました。

西郷村立小田倉小学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：「大人になったら・・・」
学年：第6学年

実施状況

＜ねらい＞

職業を考えるとき、ジェンダーにとらわれた職業観で選ぶのではなく、自分らしさが發揮できる仕事に就くことが大切であることに気づくことができる。

＜主な学習活動・内容＞

導入 ・職種を男女別に分け、本時の課題をつかむ。

展開 ・ワークシート中のいくつかの職業を取り上げ、だれが行う仕事だと思ったのか、また、その理由について話し合い、ジェンダーにとらわれていることに気づかせる。

・資料をもとに、先輩が自分らしい職業に就いて活躍していることを知る。

終末 ・今日の学習をふり返り、ワークシートにまとめる。



児童の感想

- 私は、電車の運転手や車掌さん、海上保安官などは、力強い男の人がやっていると思っていたけど、資料を見て、「へえ～女人の人でもなれるんだなあ」とびっくりしました。職業は男女関係なくできることが分かりました。
- 資料を見て、イメージで男の人がやるとか女人の人がやるとか思ってはいけないと思いました。本当にやりたいと思ったことは、性別は関係ないんだ、本人が関心、意欲を持てばいつか夢がかなうんだと初めて知りました。
- 女人の車掌さんや海上保安官など、自分のイメージでは男の人がするものだと思っていたけど、自分のイメージと逆の人もいるのだから、私も将来自分に合った仕事をしたいです。

参観者の感想

- 今回の授業参観は、子ども達が将来の職業を考える上で、選択肢が広がる内容だったと思います。今はまだ先のことは、ピンと来ないかもしれません、自分が将来どんな職業に就きたいか、じっくり考えて選択してほしいと思います。
- 家で、「将来の夢は何?」という会話はしていても、具体的に職業を選ぶ時の話はしていなかったので、今回、学校でこのような授業があったのは、とてもよかったです。
- 今の時代は、性別に関係なく職業に就けるんだ、と改めて感じました。海上保安庁に女性がいらっしゃるとは、正直驚きました。我が子が大人になり、仕事をする頃には、今よりもっと男女の垣根が取り払われているのだろうと思いますし、我が子も自分の選ぶ職業に向かって邁進してほしいと思いました。

指導者の感想

- 授業をすることによって、子ども達は、職業に男女の差ではなく、自分の就きたい職業を選べばよいという考えをもつことができた。
- 子ども達が、将来に向け、職業を選ぶ際の一つの判断材料となった。

棚倉町立棚倉中学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：男女の協力
学年：第3学年



実施状況

11月11日（木）の棚倉町教職員研修会にあわせて本授業の公開を行いました。町内の幼・小・中・高校の教職員の研究交流の場として設定されており、当日はたくさんの先生方に参観していただきました。事前に調査した家族の家事分担アンケートの結果をもとに、母親や祖母の負担が非常に大きいことを捉え、家事の大半を女性が担当していることを理解しました。

ジェンダーという言葉と意味を紹介し、世の中に依然として残る男女の社会的性差を理解した上で、ロールプレイや総理府等によるデータから、共働きの家族が増えていること、夫は外で働き、妻は家庭を守ることに時代とともに否定的な傾向になってきていることを理解しました。

最後に、未来の家庭づくりマニフェストを書き、自分なら未来のパートナーとどのように家事分担を行うかを考えました。

生徒の感想

- 今まで私は、「妻が家事をして夫は仕事」という考え方を持っていましたが、未来の家庭では、自分と夫で家事分担をして一緒に協力していきたいと思います。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考えにとらわれないで、2人で協力しながら家事をやれればいいと思いました。
- 自分もたぶん将来、共働きになると思うので、未来の妻に任せきりにせず、自分も家庭を守っていきたいと思いました。
- パートナーが忙しい時は、言われなくても自分から進んでやれる人になりたいと思います。

参観者の感想

- 男女の仲がよく、お互いを尊敬し合っているクラスに感じられた。ランキング発表の際にたくさんの生徒がプレゼンテーションで紹介されたが、賞賛の拍手が素晴らしかったです。
- 自分の家庭しか見たことがない生徒たちが、他の家庭の情報を知って、ジェンダーを理解したことで、考え方には大きな変容が見られたのではないかと感じました。
- アンケートの提示がわかりやすかったし、生徒が楽しめるようなつくりであったので、それをもとに男女の協力について考えるよいきっかけとなったのではと思います。

指導者の感想

そう遠くはない未来において、家庭を築いていくことになる生徒にとって、今回の授業は、男女が互いに助け合う家庭を作っていくことの大切さを気付かせるよいきっかけになればと思い、授業を行いました。授業のはじめは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えが多かったのに対して、終わりには、「互いに協力すべき」という考えになれた点が、よかったです。



県立塙工業高等学校

教科名等：公民「現代社会」
単元(題材)名：働くこと、社会とかかわること
学年：第2学年

実施状況

現在の求人状況と2年生の進路希望の状況（それぞれ事前に調査しグラフ化）を踏まえ、働くことの意義、そして雇用をめぐる環境（特に女子の就職状況の厳しさ）を説明した。

その上で男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法に触れ、法の求める理想と現実のギャップ、そしてそれを乗り越えて生徒自身が自己実現（就職）を達成するためには何が必要かを考えさせる授業を開催した。

生徒の感想

- ・ どれだけ就職が厳しいのかがわかりました。今からできることをしっかりとやりたいです。
- ・ 働くことを何も意識せず後回しにしてきましたが、今回の授業を受けて、危機感や不安が大きくなりました。また、社会に貢献できる人になりたいと思いました。
- ・ 女子の就職状況の厳しさを知って、少し考えてみようと思う気になった。
- ・ 授業を通して、これから何のために働くのか、考えることができたと思います。
- ・ 進路にかかわらず、いつかは必ず就職する。早いか遅いかだけの違いの中、どのようにして「何にでもなれる自分」、つまり能力を身に付けていくか。本気で考えようと思った。

参観者の感想

- ・ 「男女共同参画社会」の言葉をあまり意識せず、進路について自ら考える中で自然にこの言葉を認識・理解できている授業展開は良かった。
- ・ 事前アンケート調査や授業プリントの作成など、授業準備の大切さをあらためて感じた。来年の就職活動に向けて、良い緊張感を持たせる授業だったので。
- ・ 工業高校では、女子の就職が難しいという理由がよくわかった。生徒の生活に直接関係する内容だったのでおもしろかった。
- ・ 生徒を動かす場面がもっと欲しかった。生徒の意見等を授業展開の中に入れられれば、さらに認識・理解が深まったように感じる。

指導者の感想

現在、進路指導部担当であることを利用し、求人件数を調べ上げ、生徒にとって実感がわく数字を並べた上で授業を開催しました。教科書の内容に「男女共同参画社会」の話を加えたため、内容が多くなり過ぎ、最後は時間が足りなくなってしまいましたが、この授業の内容を通して、生徒が男女の平等、そして来年度の就職について意識してくれれば、と考えています。

授業を開催する上で、理想論を述べるのではなく、現実の社会の中で少しずつ良い方向に進むためには何が必要か、どんな努力が求められるのかを考えました。より具体的な結論の方が本校の生徒は理解しやすいのではと思いますが、生徒たちが（特に女子生徒が）将来に向けてよりいっそう自分を磨くことにつながってくれれば、と願っています。

下郷町立楳原小学校

教科名等：学級活動

単元(題材)名：「自分に合った職業を選ぶためには」

学年：第5学年

実施状況

9月10日（金）に公開し、地域の方々や保護者、本校教職員に参観していただきました。男女共同参画について、事前に子どもたちの意識を調査したところ、職業に対するジェンダーにとらわれた考え方を持っていることが明らかになりました。

そこで本時では、まず自分たちの将来の夢を男女入れ替えて考えさせることで、自分たちがジェンダーにとらわれた職業観を持っていることに気づかせました。そして、事前アンケートで特に顕著な結果が見られた「消防士」と「幼稚園の先生」について男女どちらに向いているかを話し合わせる中で、個性の重要性に気づかせました。さらに、性別にとらわれることなく自分の個性に合った職業を選択した人たちの実例を紹介し（女性消防士・男性幼稚園教諭）、職業選択に対する考え方を深めさせることができました。

男女のイメージにとらわれず、自分の個性を見つめた上で職業や役割につくことの大切さに気づかせることができました。

児童の感想

- ・ 仕事にも種類によって男女の区別があると思っていた。しかし、今日の授業で仕事に男女の区別はないということが分かった。
- ・ 女の人が消防士をしていたり、男の人が幼稚園の先生をしていたりしているというのがびっくりした。
- ・ 消防士は男、幼稚園の先生は女だと思っていたけれど、今日みんなで話し合ったり、2人の人を紹介されたりして、男女関係なく自分がやりたいと思った仕事を選ぶのがいいと思いました。
- ・ 男女のイメージに関係なく、自分の良いところが一番發揮できる職業につきたいと思った。

参観者の感想

- ・ 男女共同参画については子どもたちは素直に受け入れられるかもしれないが、大人が受け入れていく方が難しい気がした。
- ・ 子どもたちの価値観を変えるきっかけとなる授業だった。
- ・ 個性重視の生活を大切にしてほしい一方、男らしさ、女らしさということもなくしてほしくない。
- ・ 家では教えることが難しいため授業できっかけを作ってもらい、よかった。



指導者の感想

本学級は男女が協力し合って生活する姿が見られます。本時の授業を行うことで過剰な意識があおることがないよう配慮しながら授業を進めました。子どもたちはこれから成長していく過程で「男」「女」について考えるよいきっかけになると思いました。

また、参観していただいたたくさんの方々に、職業に対するジェンダーにとらわれた考え方があることに気づいていただけたことは、今後の社会教育や家庭教育の充実につながるものと感じています。



下郷町立下郷中学校

教科名等：社会（公民的分野）
単元(題材)名：「男女共同参画社会の実現」
学年：第3学年

実施状況

11月2日（火）に公開し、地域の方や保護者、教育委員会職員など、多くの方々に参観していただきました。

本時では、男女共同参画社会が本当に実現できているのか、また、さらに実現していくためにはどうすればいいのかを考えさせました。

まず、「男は外で仕事、女は家で家事、育児」という言葉についてどう思うか、と問うことで男女共同参画社会を考えさせるきっかけとしました。最初に男女共同参画社会とは「男女がともに責任・役割を分担し、性別にかかわりなく個性や能力を発揮できる社会」であることをとらえさせました。その上で自分たちの身の回りではその社会が実現できているのか、考えさせました。生徒の大部分は実現できていると答えていました。次に数人の女性にインタビューした内容を生徒に提示し、それを聞いた後で、男女共同参画社会が実現できているのか、再び考えさせました。そうすると、全員が実現できていないと答え、考えに大きな変容が見られました。さらに深めるためにグループ学習を取り入れ、「今よりももっと男女共同参画社会実現を進めるための方策」をみんなで考え、意見をまとめることができました。大切なことは育児においての施設面の充実と、男女が互いに助け合い協力していくことであると気づいたようです。

生徒の感想

- 女性の方が男性に比べると負担や役割が多いことに気づいた。
- 育児、家事もそれぞれが協力していくことが必要であり、家族の支えがなによりも大切であることに気づいた。
- 女性も子育てをしながら自分の能力を発揮できるよう世の中に早くになってほしい。



参観者の感想

- 論理的には男女共同参画の意義をとらえることができた。
- 最初は男女共同参画社会が実現できていると思っていたようであるが、授業の途中には男女共同参画社会が実現できていないということに身近な例をとおして気づくなど意識に変化が見られ、男女共同参画社会を考える上で大きなきっかけとなったと思う。
- 子どもたちの方が大人よりも男女共同参画社会を素直に受け入れていると感じた。

指導者の感想

本授業を通して生徒たちは男女共同参画社会の実現はまだまだであるということがわかったと思います。

そして、その社会の実現は現代社会にとって必要不可欠であると認識し、国や私たち一人ひとりが意識して取り組んでいかなければならぬということに多くの生徒が気づくことができたと思います。さらに今後どのような努力が必要であるかについても話し合い活動を通じて確かめ合うことができたと感じています。



県立田島高等学校

教科名等：家庭「家庭基礎」
単元(題材)名：「育つことから育てることへ」
～子育てにかかわる～
学年：第1学年

実施状況

男女共同参画社会についての理解を深めさせるために、夫婦の役割分担意識や共働き世帯数の推移、育児休業取得率の推移などの資料を準備し、班ごとに話し合いを持ち、意見を発表させた。

また、男性が育児休業を取得した事例をあげることにより、男女が協力しながら子育てを行うことの大切さを理解させたいと考えた。



生徒の感想

- ・ 子育てには、役割分担意識という根強い意識があった。しかし、女性の社会進出により、意識が変わっていった。また、育児休業の男性取得率がとても低いことが分かった。
- ・ 育児・介護休業法については知っていたが、資料を見て男性の育児休業取得率の低さには驚いた。働くことはもちろん大切だが、休業を取ることも大切だと思った。
- ・ 育児休業や介護休業を男性も取得できることが初めて分かりました。しかし、取得している男性が女性に比べとても少ないということに驚きましたが、班で話し合って、男性が取得しない理由に納得したところもあったが、やはり男性も育児休業を取った方がいいと思った。
- ・ 育児休業は男女共に取得できるのは知っていたが、資料のように、男性が育児休業を取りにくい状況にあることは知らなかった。
- ・ 子育ての時には、女性だけでなく男女も育児休業を取って子育てをすれば、家族が一緒にいられる時間が増えると思いました。でも、絶対ではなく家族と相談をするだけでも、意識が変わってくるのではないかと思いました。

参観者の感想

- ・ 授業形態も班での話し合いを設定し工夫があった。生徒が課題によく取り組んでいる姿が印象的でした。生徒とのやり取り、指名の仕方、板書が今後さらに工夫されればと思う。
- ・ ジェンダーの問題を取り上げ、「気付かせる」授業で、生徒の感想を読ませていただき目標は達成できたのではないかでしょうか。教室グループ（班）の分け方も参考になった。

指導者の感想

授業を通じ、男性と女性の意見を出し合うことにより、考え方の違いや思いを分かり合うことに繋がったと思う。

生徒の半数以上が、男性も育児休業が取れることを知らず、「子どもは妻が育てる」といった役割分担意識が見られたが、事例をあげ班ごとに話し合いをさせることにより、意識の変化が見られたことはよかったです。

しかし、過去のデータを掲載した資料に頼ってしまった部分が多く、もっと身近な事例から考えさせれば、さらに興味・関心を喚起することができたのではないかと思う。

南相馬市立八沢小学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：みんな なかよし
学年：第3学年

実施状況

<授業のねらい>

あたたかい言葉をつかうことによって、友達とよりよく関わることに気づくことができる。

<主な活動内容>

- ① 言葉には、「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」とがあることを知り、これまでの経験を出し合って、言葉から受ける感じ方の違いについて考える。
- ② よりよい人間関係を築くにはどのような言葉遣いをすればよいか、ロールプレイを通して話し合う。
- ③ 自分のめあてを決め、実践する。

児童生徒の感想

- ・ ふわふわ言葉とチクチク言葉を考えるのが楽しかった。
- ・ ふわふわ言葉を使って生活すると仲良くなれる。
- ・ チクチク言葉は嫌な気持ちになるので、これからも使わないようにしたい。
- ・ みんなと仲良くするために、チクチク言葉は言ってはいけない。
- ・ (ふわふわ言葉やチクチク言葉から受ける違いに気づいて) 言葉ってすごいなあ。
- ・ いい言葉がたくさんある。考えて使っていきたい。



参観者の感想

- ・ 自分はなんとも思っていないくとも、ちょっとした会話の中に、相手を傷つけてしまう言葉があるかもしれない。そういう時に今日の授業が浮かんで「はっ」と思ってもらえば。
- ・ 人に言ってよい言葉と悪い言葉をきちんと学ぶことで、相手のことも考えるようになるし、いじめにもならないと思うので、意義のある授業だった。
- ・ 小さな言葉一つでも相手を傷つけたり、救ったりするので、常に心がけてほしい内容だった。
- ・ 頭ではわかっていてもできないことが多く、自分に置き換えて感じる大切さを知った。

指導者の感想

- ・ 今のところ言葉による大きな問題はないが、交友関係の広がりやテレビ・雑誌等からの影響を受けることによって、今後トラブルに発展する危険性がないとはいえない。そういう事案が起こる前に、相手にかける言葉一つにしても、わずかな気遣いで、よりよい人間関係が築けることに気づかせることができた本授業の内容は、ねらいを達成するために効果的であったと思われる。また、今回は保護者参観日だったので、これから言葉遣いや生活態度について、親子であれこれ話し合ったり考えたりするよい機会となった。
- ・ 授業展開については、課題解決の必要感を児童に持たせたり、これまでの体験や思いを喚起するような発問が足りなかつたりという反省点もあるが、この授業以降、日常会話の中で相手を思いやる言動がよく見られるようになり、授業による意識化が図られたととらえている。

楳葉町立楳葉中学校

教科名等：保健体育
単元(題材)名：柔道
学年：第1学年

実施状況

男女合同の柔道の授業を通して、男女の特性を生かし技能の向上を図るとともに、男女の違いにも気付かせ、協力しようとする態度を養う授業を展開した。



(授業のねらいを発表する女子生徒)



(受け身の練習の様子)

生徒の感想

- ・ 男女合同の授業は楽しかったので今後もこのような機会を作ってほしい。
- ・ 自分の身を守ることの大切さを目標に受け身の練習をしました。
- ・ 男女で協力して前回り受け身ができるようになりました。

参観者の感想

- ・ きびきびした柔道の授業を見て、違和感なく男女が仲良く授業に取り組む姿に感動しました。
- ・ 先生の指導により整然と受け身の練習をするとともに、男女の話し合いの場が設定されてよかったです。
- ・ 体力作り、受け身の練習、手押し相撲など男女とも運動量が確保され、技能の向上も見られました。将来の男女の協力体制が予想されたよい授業でした。

指導者の感想

- ・ 今回の授業は男女共修を通して、男女の違いに気付かせながら協力する態度や技能の向上を目指したものでした。平成24年度から武道が必修となり女子も武道の授業を行います。そこで、同じ空間の中でお互いの学び合いを通して、技能や態度などを高めさせたいと考えます。生徒たちは、緊張の中にも生き生きと活動ができていました。また、質問に対して真剣に考えたり、意見交換をしたりする姿が見られました。

県立双葉翔陽高等学校

教科名等：家庭「家庭基礎」

単元（題材）名：これからの家族

～男女が共につくる家族～

学年：第1学年

実施状況

家庭生活を支える2つの労働には、報酬をともなう「職業労働」と、快適で人間らしい生活を送るために必要な「家事労働」があることを知らせた。職業労働と家事労働の分担のあり方が重要となることを認識させた上で、「サザエさんの家族」を例に挙げ、「気持ちよく毎日の家庭生活を送るためにどうしたらよいか」というテーマを掲げ、グループ学習（家族会議）を実施した。男女が互いに協力して家庭生活を築くためにはどのようにすればよいかを考えやすいように、「夫さんが入院したら」、「サザエさんが妊娠したら」、「サザエさんがフルタイムで仕事をしたら」という3つのケースを用意し、一人ひとりに役を与え、家族会議を展開できるようにした。

児童生徒の感想

- 自分でできることを探して、家族が困っているときに助けてあげることが大切だとわかった。
- いろいろなケースで家族のためにできることを決めた。少し話し合いがつまずいたけれど、最後はスムーズにできた。サザエさんの家族で考えたのが良かった。
- 家族会議が少し難しかった。
- どのグループもカツオの役割は「掃除」で、「食事の準備」ではなかった。

参観者の感想

- サザエ家をモデルとするアプローチは、とりかかりとして入りやすく可能性を秘めていると思った。
- シミュレーションの3つのケースが生徒たちにとって受け入れやすいものであった。また、サザエさんの家族構成がどの生徒もよく想像できたので全員が参加できる話し合いであった。
- もう少し、家族会議らしい意見交換ができるとよいと思った。

指導者の感想

生徒の現状が知りたいと思い、「家制度」や「民法」、「性別役割分業意識」等には触れずに授業に入った。予想はしていたが、カツオの分担内容は「(風呂)掃除」、ワカメは「食事全般」であった。それが、生徒が今まで見てきた「サザエさん」の各キャラクターの性格からなのか、性別による役割分担によるものなのかはわからないが、生徒たちの意識の中では「家事全般は女性がするもの」という構図があると思われる。しかし、生徒の感想に「自分ができることをして、お互い助け合う」、「今日帰ったら手伝いをする」とあり、「家族の一員として、協力して家庭生活を送る」という意識付けができたと感じる。眞の男女共同参画社会になるよう、参観者の助言を踏まえ、授業の展開や時間配分の工夫・改善に努めたい。